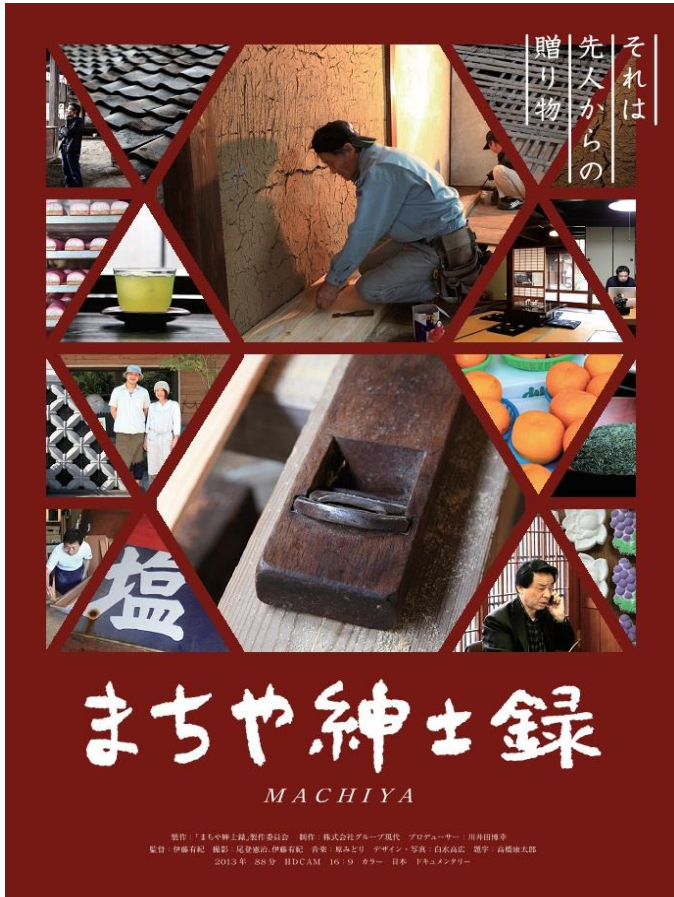


## ドキュメンタリー映画「まちや紳士録」概要説明

(2015年9月現在)



—「まちや紳士録」のチラシの表紙—

### ●日本の伝統文化である歴史的町並みの保存継承活動

八女市の市街地の一角を占め、江戸時代以降に商家町として繁栄した「町家群」の残る八女福島では、H3年の大型台風によって被害を受けた町家が、取壊されるなどの状況を見て危機感を感じた市民有志が、まちづくり団体を発足させ、八女福島の町並みを活かすまちづくり活動を様々な市民が主体的に実践する形で展開され、行政もその活動を支援してきた。



—八女福島の町並み(居蔵造の町家が並ぶ)—

一方で、近年、少子高齢化が日々進んでおり伝統家屋の空き家が増加する中で、八女福島の町並みを保存・継承し、地域のコミュニティの維持を図るため、空き家の所有者を含め修理

等相談活動、その修理を担う技術・技能者の育成活動、伝統的な祭事の保存・継承活動など多種多様の取組みを有機的に結びつけ、持続的に展開していくが必要になっている。



—毎年9月に3日間公演公開される・八女福島の燈籠人形—



—町家の保存修理:柱根継ぎ—

これらの課題を真正面から受止め、先駆的な活動を進めるため、市民の様々なまちづくりの主体が歴史・文化のまちづくりの大切さを共有し、協働を追究しながら日々努力を重ねている。

### ●ドキュメンタリー映画製作の具体的活動と意義

この映画製作のきっかけは、2011年9月に八女福島の燈籠人形(からくり人形)公演の見学した映画会社のプロデューサーが、見学後に地元の人と町家で地酒を酌み交わし、八女福島の町並みの保存継承活動に触れたことに始まり、映画監督が八女福島の町家暮らしを始めたことで、構想が大きく膨らんだ。

私たちは、先人の知恵と努力の中で育まれてきた日本の伝統文化として、世界に誇るべき歴史的町並みを後世に伝え残していくため、少子高齢化の深刻化による町家の担い手不足、社会構造の激変に伴う建築文化の変化の中で大工や左官などの職人の減少による伝統的建築技術の担い手不足などが厳しい現実に直面しており、その課題に重点的に取り組むため、八女福島の様々なまちづくり団体及び住民、移住者及び移住希望者、そして建築士、大工等の職人に取材し、修理現場を含め撮影を行い、ドキュメンタリー映画を製作した。

高度成長時代にスクラップアンドビルドという価値観のもと、日本の原風景である多くの町並みが破壊された。経済の論理、開発の波から取り残された町並みは、バブルがはじけて低成長



時代が続く今、輝きを取戻そうとしている。それはなぜか、そこには日本人の伝統文化を大切にしている心があるからである。「古民家を修理して住む、古材を利用する、家を代々つないでいく」、「暮らしをつないでいく、命をつないでいく、伝統をつないでいく」日本の「木の文化」は、暮らし、命、心とともに家(町家)を繋いできた。この映画は、繁栄のかなで忘れかけている日本の心の本質を問いかけている。

2013年8月に完成したこの映画は、福岡、東京、京都、大阪、名古屋、神戸等の映画館で公開され、全国で日本固有の町家や民家建築等を修理し未来に繋げていく活動を展開している地域を中心に 40 箇所を越える地域で上映会が取組まれ、大きな反響を呼んでいる。



—町家の手入れ:べんがら柿渋塗り—



—地元福島小学校6年生の土壁塗り体験授業—



— 町家の修理事業:修理前(上):修理後(下)—

### ●製作の期間等

◎映画の製作: 2012年6月22日~2013年8月10日

◎映画は、1時間28分(88分)の長編です。

◎映画の全国上映: 2013年9月~今日まで

### ●地域上映等及びDVD購入の問合せ、製作の体制等

◎DVD購入申込(個人視聴用)

※2015年5月30日、紀伊国屋書店からリリース発売中。(購入は「紀伊国屋書店」の店頭及びウェブストアにてお願いします)

◎問合せ先:「八女町家ねっと」事務局長 北島 力

TEL 090-8413-6128、FAX 0943-22-5804

〒834-0031 福岡県八女市本町264 八女町家再生応援団内

E-mail [bynrt982@ybb.ne.jp](mailto:bynrt982@ybb.ne.jp)

HP <http://www.yame-machiya.info>

◎参画団体: NPO法人八女町並みデザイン研究会、NPO法人八女文化振興機構、NPO法人八女町家再生応援団、八女ふるさと塾、八女福島白壁ギャラリー企画室

◎賛同人: 安部龍太郎(直木賞作家)、梶山秀一郎(建築家)、黒木 瞳(女優)、椎窓 猛(詩人)、調 紀(明永寺住職)、西村幸夫(東京大学副学長)、野村興兒(萩市長)、前野まさる(東京藝術大学名誉教授)、松久保秀胤(薬師寺長老)、松田久彦(八女ふるさと塾名誉塾長)、山本源太(陶工)

◎後援: 八女市、八女市教育委員会、八女商工会議所、八女市観光協会、八女ロータリークラブ、八女ライオンズクラブ、八女福島町並み保存会、全国伝統的建造物群保存地区協議会、NPO法人全国町並み保存連盟、作事組全国協議会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、公益財団法人日本ナショナルトラスト、朝日新聞西部本社、毎日新聞社、西日本新聞社

### ●製作スタッフ

◎プロデューサー: 川井田博幸(株式会社・グループ現代)

◎監督: 伊藤有紀

◎撮影: 尾登憲治、伊藤有紀、◎音楽: 原みどり

【監督のプロフィール】2005年、東京都北ケーブルTVの連続ドラマ「商店街探偵キタ」がディレクター初仕事。スカパーの旅番組「イケメンリダース」では2年3ヶ月かけ日本一周を果たす。企業や行政のVP など多数制作。福岡県柳川市が舞台のセルDVD 用短編映画「町を歩けば」がショートショートフィルムフェスティバル&アジア2011 ミネート。その他の作品に、福岡の県南・筑後地方で行われた画期的な公共事業・九州ちくご元気計画のドキュメンタリー映画「筑後ちくごChikugo」三部作など。

## ●作家・編集者の「森まゆみ」さんよりのコメント

町並みがこれほど映画の主演になったのは初めてではないだろうか。

若い夫婦が八女の古い町並みにすみ始める。かつて排他的だった町もいまはそうもいってられない。若者たちを受け入れ、ともに町をよみがえらせようとする。

雨戸、坪庭、三和土、鴨居、なめくじとまで共存する新しい生き方ここにあり、じわじわと日本の国土にしみわたってほしい佳き作品。

## ●映画を見た方のブログの感想が映画の醍醐味を語る

いい映画だ。まちの再生はやはり「人間」だ。

「柳川堀割物語」を思い出した。

あの時の柳川市職員広松伝氏に代わり、今日は北島力さん。彼は元市職員で現役の時から、八女町家再生応援団というNPO保人を立上げ、その代表として空き家の再活用に取組んでいる。福岡県八女市福島地区は県南部のかつての城下町。廃城後も周辺の町の商業的中心地、その歴史的町並みは現在もまだ白壁の伝統家屋を数多く残している。

しかし、高度成長後の少子高齢化とバブルの崩壊、人口の減少から始まる、伝統手工芸や町並みの喪失は、いまや中間山村だけではなく、日本中どここの都市でも起こっている問題なのだ。記録映画化された八女市福島地区もまたグローバル化の波と台風等の災害により古くからの町並みが日に日に壊されていった。

奮起した北島さんは「このままではいけない」とまちの建築家中島孝行さんと手を組み、伝統的建造物の再活用をめざす。空き家活用の取り組みのポイントは様々の分野の移住希望者を集めることであろう。

そして、大工、左官、瓦や塗装……伝統技術を若い人に引き継いながら、競争無縁社会を「つくろいなおす」営みが映画の中に克明に描かれていく。



— 宅老所「はるさん家」 —

この映画を作った監督の伊藤有紀さんもまた、この地に最近、越して来られた家族。

さらに、都会のマンション生活を切上げ、子どもの為の絵本や八女地方の伝統手工芸品の情報発信を取組む若者。

あるいは原発事故で汚染された地を見限り、この地で新たに宅老所を運営されようとする家族。

みなさん、若い方々だ。

これから始まるであろうヒト・モノ・コトのつながりは、このまちの伝統継承、目を見張る「燈籠人形」の上演と解体に象徴され、88分の映画は終わる。

配布された作品紹介パンフの中には「町並みと伝統を守ってきたこの地での命をつなぐ営みの記録」と書かれている。



— 伝統手工芸品の情報発信店「アンテナショップ・うなぎの寝床」 —

## ●八女福島のまちづくり歩み

### ● まちづくりの経緯 ●

- 1991年(H3)
  - ・新聞記者の呼びかけで勉強会
  - ・超大型台風 17号・19号により町家の被害甚大
- 1993・1994年(H5・6)
  - ・まちづくり団体「八女・本町筋を愛する会」「八女ふるさと塾」発足
  - ・「八女町屋まつり」スタート
  - ・町並み保存を公約に掲げた若い市長が誕生
- 1995年(H7)
  - ・「八女福島伝統的町並み協定運営委員会」発足(住民組織・12町内会:現・八女福島町並み保存会)
  - ・「街なみ環境整備事業」で町家の修理・修景事業の開始
- 1996・1997年(H8・9)
  - ・伝統的建造物群保存対策調査(2カ年)
- 1998年(H10)
  - ・「雛の里・八女ぼんぼりまつり」スタート
- 2000年(H12)
  - ・「NPO法人八女町並みデザイン研究会」発足(設計・施工)
- 2001年(H13)6月
  - ・「八女市文化的景観条例」制定、伝建地区の都市計画決定
- 2002年(H14)5月
  - ・「重要伝統的建造物群保存地区」に選定
  - ・「伝建制度」による町家の修理事業 開始
- 2003・2004年(H15・16)
  - ・「NPO法人八女町家再生応援団」発足(空き町家保存再生)
- 2006年(H18)
  - ・「第29回全国町並みゼミ八女福島大会」開催(約800名)
- 2009年(H21)
  - ・「八女福島白壁ギャラリー企画室」発足(若者が参加企画)
- 2010年(H22):デザイン研究会と町家再生応援団の協働活動
  - ・日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産に第1号登録
- 2013年(H25)
  - ・「八女福島のまちづくりを記録し検証」(まちや紳士録の製作)